

参考資料 4

営繕工事における天然ガス対応のための関係官庁連絡会議発行 「施設整備・管理のための天然ガス対策ガイドブック」から抜粋

「施設整備・管理のための天然ガス対策ガイドブック」第2章「地盤」1. (2) 天然ガス発生地域

井戸を廃孔する際は、隙間をすべて難透水性の物質で充填する必要がある。例えば、井戸底まで延長管を井戸に挿入し、セメントミルクを井戸底から打ち上げると、ストレーナ部より井戸管周囲の隙間にもセメントミルクがまわることも期待でき、井戸内は隙間なくセメントミルクで埋められる。しかし、井戸管の周囲の隙間については検証ができないので、しばらくガスモニターを行う必要がある。

近年、関東地域には上総層群中のかん水を温泉水として揚水する井戸が多数掘られており、このような井戸は井戸管周囲の隙間をセメントミルクなどでしっかりと埋めていることや、ガスモニターを行うことが必要である。また、廃孔の際は、上記のような正確な廃孔処理が必要である。また、さまざまな土木・建築施設の地盤調査や基礎工事、地質汚染（土壌汚染・地下水汚染を含む）調査・対策などの際のボーリングを行うが、調査後には必ず前述の廃孔処理と同様に、掘削孔の一番奥からセメントミルクを打ち上げる必要がある。このことは、地下水汚染の拡大防止上も有効である。